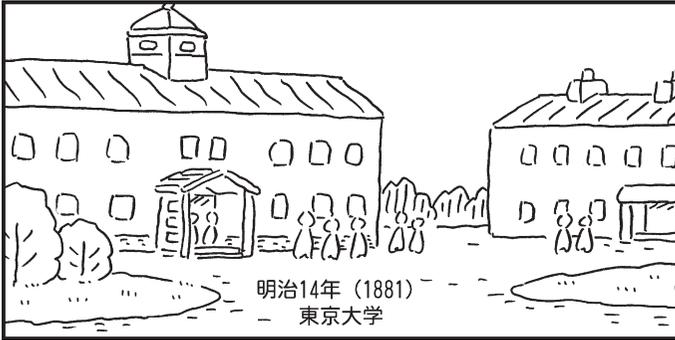


第2話
柔道の誕生



明治14年(1881)
— 東京大学



大学で学業に
励みながら
治五郎の
道場通いは
続いていた



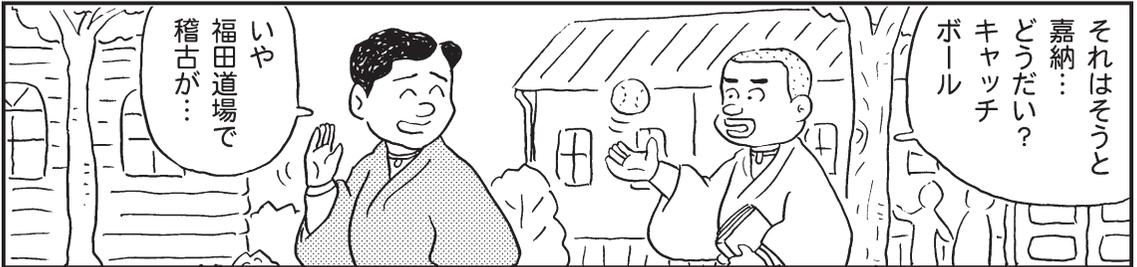
日本にはない
論理性がある

嘉納治五郎
21歳

そう
ミルの自由論は
まことに新鮮!



やっぱり
フェノロサ教授の
講義は刺激的だ
なあ



それはそうと
嘉納：
どうだい？
キャッチ
ボール

いや
福田道場で
稽古が…

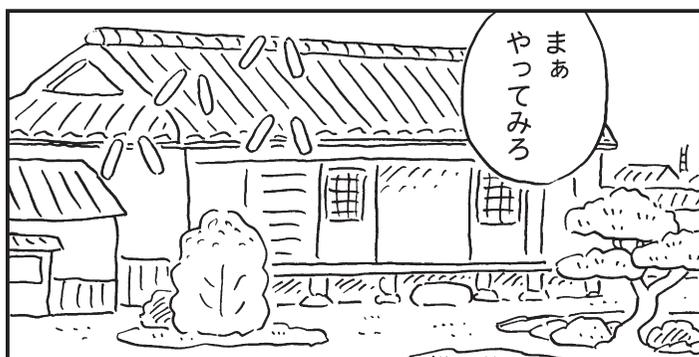
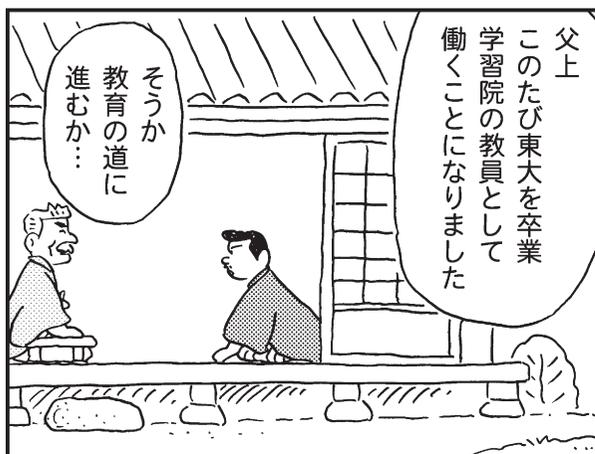


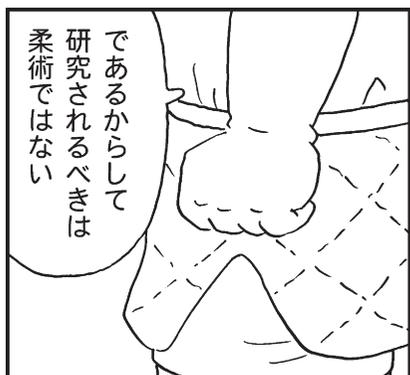
おかしな
奴だ

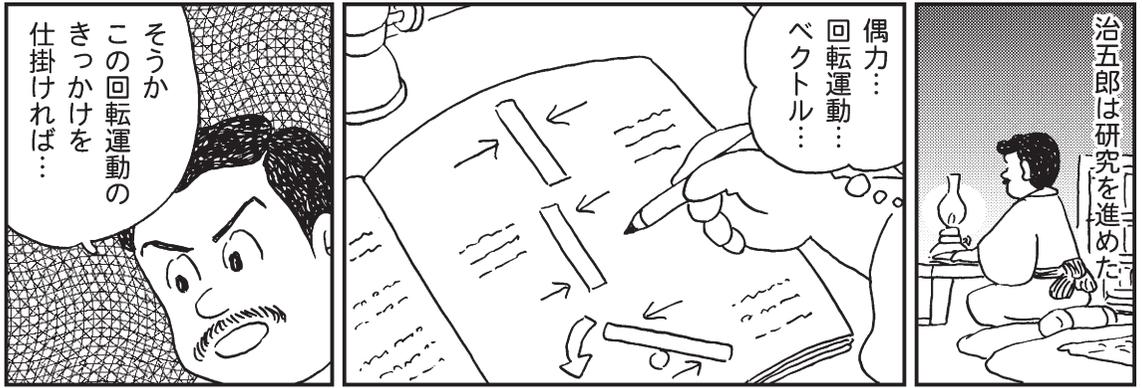
ふん
ジョン・
スチュアート・ミル
を語る東大生が
柔術なあ…



ベースボールや
ボートも
経験してみたが
やはり自分を
鍛えるには
柔術が一番だ







そうか
この回転運動の
きっかけを
仕掛ければ…

偶力：
回転運動…
ベクトル…

治五郎は研究を進めた

研究あれば続く実践
治五郎の柔道修行は厳しく
中でも入門もない志田四郎は
格好の稽古相手となった



《掛け》
最適な技を施す

好位置に
己の体勢を置き
《作り》

相手の安定を損ね
《崩し》



また
耐えた

ならば
払腰
くっ

おっ
四郎が
あの鋭い
館長の浮腰を
かわした

浮腰！
なんと

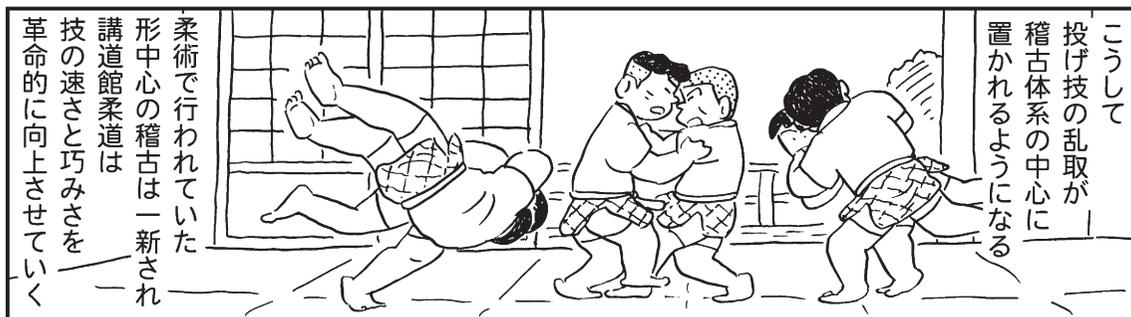


釣込腰
とでも
するか

館長
今の技
は？

よし

※志田四郎は講道館四天王の一人で『姿三四郎』のモデル。後に西郷と改姓。



精力善用
嘉納治五郎